

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200366		
法人名	日本ケアリンク		
事業所名	せらび小金原公園		
所在地	千葉県松戸市小金原4-38-6		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年7月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成29年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさの介護を実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはさまざまなことに取り組んでおり、認知症カフェもオープン予定である。家族や地域の人たちが気軽に立ち寄る場を提供し、地域包括支援センターなどとも連携して地域ぐるみで認知症の人や家族等を支援しようと考えている。また、運営推進会議をよりサービス向上に役立てるための会議として、看取りについての勉強会を考えており、専門性のある出席者の力を借りて、より利用者や家族等の満足につながるサービスを提供したいとしている。管理者は地元の出身で地域の事情に精通しており、地域で「防災に関わる協定書」を交わす話し合いをしている。これらの取り組みを実現するには職員力向上が不可欠と考え、研修、資格取得、外部会議への参加、権限移譲など質の向上につながる育成支援にも力を入れていきたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の「出来ない事を見つけるのでは無く出来る事をたくさんで見つける」を新入社員雇用時にも説明を行い、職員全体に理念の共有が出来る様努める。	法人の基本理念、運営理念に加え「出来ない事を見つけるのでは無く出来る事をたくさんで見つける」をホームの理念としている。理念は職員の共感も得ており、利用者のできる事をさらに見つけて介護計画につなげていこうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・高齢者支援連絡会・地域包括ケア推進会議に参加したりしている。	ホームは町内会に加入し、地域の行事、各種活動に積極的に参加している。管理者は地元出身の強みを生かして、地域の人達とホームとの協力関係づくりを進めている。他社グループホームの運営推進会議にも参加し交流を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小金原地域住民に向け連絡先を配布し、相談や質問等を答えられるよう周知している。運営推進会議でミニ勉強会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を回覧し、職員に周知徹底・向上を図っている。一般職員の参加も促し、参加出来る様に努めている。	利用者、家族、職員を中心に町会長、民生委員、市の担当課職員、地域包括支援センター、後見人などの参加で定期的に開催している。今後は会議の中で勉強会を行い、看取りをテーマに話し合い、サービスに活かしたいとしている。	意見交換があった場合は内容が議事録に記録されていると、さらにサービス向上に活かすことができると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やモニタリングを通して伝えられている。その他でも事ある事に介護保険課や地域包括と密に連絡をしている。	小規模多機能型居宅介護事業所を併設しており、法人として毎日のように行政と連絡を取り合っている。地域包括支援センターとは認知症カフェの開設に向けて連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は不審者が相次いでいた為、施錠を引き続き行っているが、フロアのドアは開放している。	マニュアルを整備し、研修などを通して職員の理解を深めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダー会議、ユニット会議、他リスクマネージメント会議等でも周知徹底している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を理解し、現在の利用者様でも2名の方が利用されており、成年後見人の方も運営推進会議にも毎度参加して頂ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び介護支援専門員が説明等を行い、曖昧な説明とならない様努めている。その都度不安、疑問点については説明対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様、ご利用者様アンケートを行って受診や面会の際に頂いたご意見は、話し合いを行い実践する様努めている。	法人として利用者アンケートを実施している。また、運営推進会議や家族の来訪時には意見を聞くように努めている。出された意見については検討し反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートの実施やストレスチェックを行っている。リーダー会議や会社全体の会議にて反映に活かしている。	利用者アンケートと同じく、法人が職員アンケートを実施し、意見を把握している。職員は備品担当、行事担当など役割を持っており、各種会議で意見を言う機会がある。出された意見は反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の改善は直ちに変わる事は難しい事もあるが、職員の意見を参考にし働きやすい職場作りに努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、各研修を行っている。また、その他の研修等にもスタッフに案内をし希望の研修に参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各業種の連絡会や勉強会、運営推進会議にも参加をし情報交換、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に努めてご本人様との会話の他にもご家族様からの情報も含め信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話の際にご家族様と少しでも多い会話をするようにし、相談や要望などに早く行動する様心がけ、信頼関係が築けるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な傾聴を行った上で相談をし、ご家族様、ご本人様に最適なサービスをご案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来る事」を多く発見する様努め、家事など共同で行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様と同様に「関係」を大切にしながらケアを行っている。ご家族様にも毎月ご本人様の様子を写真付きで伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人によりご家族様の了承の上で単独外出を行っており、行きつけの床屋などにも通っている。また地域主催の「梅見会」「夏祭り」などにもご利用者様も参加してもらい地域との関係性を築いている。今後、認知症カフェを予定している。	知人が訪ねてくる場合は、家族等に確認した上で迎えており、関係継続ができるようにしている。また、利用者の意向に応じて、行きつけの理容店に通うことなどを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、家事参加やレクリエーションなどを通じて入居者様同士の関係性を築ける様努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡があればいつでも相談に応じる体制になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	松戸市の相談員の方にも来てもらい第三者からもご本人の希望や思いを聞き出してもらい、ご家族の意見も踏まえ、チーム全体で考えている。	個別の外出や入浴時など話しやすい時に意向を引き出したり、介護相談員から情報を得ることもある。把握した内容は職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より伺った様子やご本人様から得た情報などをその都度、記録に細かく記入し職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各時間(早番・日勤・遅番・夜勤)ごとのスタッフ申し送りを行い、業務日誌やケース記録を確認する事により、常に把握する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や担当者会議において居室担当などから意見を聞き、特記事項や入院があればその都度話し合いを重ね対応している	利用者や家族の要望、リハビリに関しては理学療法士の助言を得るなど、本人本位にさまざまな意見を聞きながら介護計画を作成している。また、居室担当職員が中心になってモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には「ご利用者様の様子」「気持ち」などが分かるように記入している。記録以外でも口頭での情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズにお応えできるように、ご家族様とは密に連絡を取り、ご家族様が対応できない買い物や受診などは極力事業所にて代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の買い物や散歩、地域での行事などにご利用者様との交流の援助を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望に合わせ、代わりに同行したり、ご本人の状態を密に連絡を取り合っている。	定期的にホームの協力医が検診を行うほか、週1回の訪問看護で健康管理をしている。また、歯科検診も定期的実施している。現在透析が必要な利用者もいるが、協力医と透析の医師の連携がスムーズにいくように医療相談員を介して調整するなどして利用者を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師ほか、小規模多機能看護師にも情報や相談事を伝え、連携をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは連絡を密に取り、ご本人の状態、状況についての情報交換をし、早期退院に向け受け入れ態勢の整備を実践している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り以外でも医療的ニーズの話をして、ご本人、ご家族と今後について十分話し合いを行っている。	重要事項説明書に重度化した場合に係わる指針を明記し、契約時に同意をもらっている。重度化した場合は、医療相談員が窓口となり協力医などとの連携により、段階ごとにサービス担当者会議を開催し方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	6月にAED訓練、6月、12月に消火、避難、通報訓練を行っている。訓練の際は時間も記入をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議等でご家族様にメール登録のお願いをし、災害時に農家の井戸水が使用できるよう協力の依頼をしている。また、こちらにあるAEDは近隣住民も使用可能であることを周知している。	地域と災害協定を結ぶため個人情報にかかわることなどを調整中である。近隣には、ホームの備蓄や飲料用の貯水タンクの提供も可能なことを知らせている。年2回避難訓練を行い、うち一回は、夜間想定訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や状態に合わせた言葉を選び対応するように心がけている。	個々に対する呼称は家族と相談し、利用者が慣れ親しんでいる呼び方に統一している。管理者は、プライバシーの確保については、職員に対してさらに教育していくことが必要であるとの認識を持っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言動や行動に注意深く接することで、自己決定＝目的→達成となるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが、可能な限り個人を尊重しできる範囲でご本人の希望に答えられるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心がけ、その方の好みに合わせたおしゃれや嗜好を楽しめるように努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者を変更した事により以前よりより良い物が提供出来ており、メニューは決まっているがその食材で出来る別のメニューに変更したりし、ご利用者様に合った食事提供を行っている。	配達された食材の中で柔軟に対応し、メニューを変更するなどしている。また、すし職人を招いて利用者の目の前でにぎりを握ってもらったり、時には出前を取る、外食をするなど、利用者にとって食事が楽しいものになるような支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて水分や量、減塩などに対応している。ミキサーや刻みも状況に応じて行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促し、できるだけご自分で行ってもらう、磨き残しがないように見守っている。訪問歯科の先生からも評価・指導してもらうようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔や排泄動作をチーム全体で把握することにより、失敗やオムツ等の使用を減らし、自己での排泄を支援している。また、その状況を医療機関とも情報共有している。	排泄は自立している利用者が多い。失禁が増えた場合は、原因を探るようにしており、排泄の間隔を把握したうえで、支援するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や飲み物の管理を個々に行い、適切な運動と医療機関からの指導など連携を図り、記録によるチェックからも早めの対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やケアプランに沿ってチーム全体で取り組んでいる。曜日や時間帯にとらわれず、中には夜間希望の利用者もあり、夜間に対応することもある。	入浴剤を使ったり、利用者の好きな音楽を流すなど、入浴が楽しめるような工夫をしている。また、外出前に入浴したい、カラーリングの前に入浴したいなどの希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様が安心して気持ちよく眠ることができる様に、排泄間隔や入眠のタイミングなどを把握し、適切な見守り→声かけを行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の日々の状態などを医師や薬剤師と適切に情報共有することで薬剤の過剰や、副作用の出現を抑えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様や、ご本人様との会話の中から嗜好や楽しみごとを探り、ホームでの生活を楽しめるように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候やご利用者様の体調により散歩や買い物に出かけるようにしている。いちご狩りや花見、外食行事にも出かけ、近隣主催の福祉フェアにも参加できるように支援している。	介護計画書に散歩や買い物を機能訓練として組み込んで支援している。また、買い物については個別支援で対応することもある。お花見など季節ごとの外出や外食にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理の方も多くおり、日常の買い物の際にも自分で支払って頂いている。社会性を失わない様な支援を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承があれば、原則として電話はいつでも可能。手紙もご親戚の方やご兄弟の方から届いたりする為、スタッフと一緒に返事を作成して送ったりして、お互いの近況を報告し合えるような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ幼稚にならないように心がけ、季節ごとの飾りつけをして季節感を取り入れ、ご利用者様に楽しんでもらっている。温度・湿度にも気を配っている。ご利用者様が快適に暮らすことが出来るように施設としてのリスクマネジメントを行っている。	リビングは採光がよく明るく、温度や湿度も適切に管理している。2階への階段は傾斜がゆるく、機能訓練にも利用している。テーブルのイス以外にも自由に休める場所を所々に設置するなど居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置や座席の位置を工夫し、集団生活の中でもご利用者様が居心地良く居られるように対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にその旨説明し、ご家族様に配置して頂いている。また、ご面会の際に必要な物などの声かけををお願いしている。	入居時に家族等に依頼して、これまでの馴染みの品を持ってきてもらうようにしている。転倒の危険のある利用者には敷物を工夫するなど安全面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	快適で安全な生活が営めるように必要に応じて配置換えをしたり、ご利用者様に合った環境作りを行っている。		